

キッズ応援教室& 100m走タイムチャレンジ

「東京レガシースタジアム2025」のイベントの一つとして「キッズ応援教室&100m走タイムチャレンジ」が10月19日、国立競技場のトラック&フィールドで行われ、親子連れら約85人が参加しました。子どもたちは陸上競技の聖地、国立競技場で世界の国旗を振って応援の練習をしたり、トップアスリートが駆け抜けってきたメインストレートを走ったりして、家族と貴重な体験を楽しみました。

参加したのは、事前に申し込んだ5歳から8歳の子ども35人とその保護者。子どもたちは国立競技場の観客席に入ると、競技場の大きさにびっくりしながら、楕円形の大屋根の真ん中に見える空を見上げていました。その後、観客席からフィールドに降りて、担当者から世界各国の国旗を1本ずつ渡され、駒澤大学体育会応援指導部「ブルーペガサス」が待つエリアへ。

最初にブルーペガサスの迫力満点の応援の実演を見学しました。初めて見るチアリーディングに、子どもたちは目を見張り「すごい」と声をあげていました。応援団員から「大きな声で『がんばれー』と言ってあげると、選手の大きな励みになります。大きな声で応援しましょう」と応援のコツを教えてもらい、メインストレートの横に移動。いよいよ、実際に子どもたちが応援する番です。

メインストレートでは、30分前に始まった「100m走タイムチャレンジ」が行われている最中で、年上のお兄さん、お姉さんランナー

が次々と走ってきます。子どもたちは応援団員と一緒に、国旗を大きく振りながら、教えてもらった通りに「がんばれー、がんばれー」と、大きな声援を送っていました。

この後は、自分たちもメインストレートで100m走にチャレンジです。みんなでスタート地点のうしろに行き、まずは準備運動。小さい子どもにとって、100mは長いので、しっかりと手足を動かして体を温めました。

いよいよスタート。スターターは、バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリストの有森裕子さんと棒高跳び日本記録保持者の澤野大地さん。子どもたちは本物の100m走と同じスタート地点に立つと、こちらも本物と同じようにスターターの「オン・ユア・マーク、セット～」の合図に続く「バン」という号砲で走っていました。トップアスリートになった気分です。

走っている途中、応援を教えてくれた駒澤大学の「ブルーペガサス」がメインストレートの横から「頑張れ、頑張れ」と懸命に応援してくれています。子どもたちはその声援に励まされ、疲れて動きが鈍くなった足をもうひと頑張りして、ゴールしていました。

フィニッシュ地点では、日本陸上競技連盟のマスコット、アスリオンと渋谷区観光協会のSHIBUYA♡HACHIがお出迎え。子どもたちは疲れを忘れて、かわいいキャラクターの着ぐるみに抱きついたり、一緒に記念写真を撮ったりしていました。

東京都江東区から参加した小学2年の女の子は「応援団のお

兄さんとお姉さんは動きにスピードがあって、すごかった。世界陸上を国立競技場で観たので、そこで応援したり、走ったりできて、本当にうれしかった。これから弟も走るよ」と、弟のゴールを待ってゴール地点で記念写真を撮っていました。

北区からお母さんと一緒に参加した小学校低学年の女の子は「世界陸上を見て参加したいと思って、お母さんに申し込んでいました。面白かったです」と話していました。国立市からお父さんと一緒に参加した小学校低学年の男の子も「面白かった、楽しかった」と満面の笑みでした。

一方、子供たちに応援の指導をした駒澤大学の19歳の女性部員も「応援する子どもたちを見て、応援は楽しいものだと改めて思いました。そして、子どもたちから笑顔で応援する大切さを教えてもらいました」と話していました。